寄稿　私の戦争体験〈31〉

戦争体験手記募集を見て、お寄せいただいた手記を順次掲載しています。

戦闘機から機銃掃射を受けて逃げた思い出（その2）

馬渕　尚子（北区）

※ともNo.425（2019年2月号）に掲載された手記の続編です。

私が7歳のときのこと。空襲警報が出て私たち友達3人は走って帰路を、200メートル程畑の中を走った。いつものように小川の所まできて歩き始め、右横を見上げると、また飛行機が1機こちらに。「ワーッ、ヒコーキ」と言って川の中の茂みに逃げ込んだ。「パン、パン、パン！」川面に水しぶき、3人は震えていた。

おさまって川から出た3人は水浸しになりドブネズミのよう。防空頭巾、ランドセルには水が入っていた。ランドセルの水を捨て、防空頭巾の水を絞り、水がしたたるランドセルを背負って頭巾は小脇にかかえ走って帰路に。友達の家で濡れた服を脱ぎ、友達の肌着を借りて、教科書の水を取り、筆箱もノートも芝生に干し、私達3人も干されて寝ていた。夕方、母が迎えに来てSちゃんと帰った。

夜、空襲警報発令のサイレンが鳴り、母は電燈に黒い衣を掛けて薄暗くしラジオの声は小さく、母、姉、弟、私の4人は背を寄せていた。突然、ラジオの大声「皆さん、早く防空壕へ！」。同時に隣組長さんが「○○さん、早く防空壕へ！」と呼びかけていた。4人も家の前に作った防空壕へ逃げ込んだ。

その後すぐに周りは燃え盛り火の海。母は弟を背負いながら姉と消火のためにバケツを持ち、池の水を汲みに防空壕の外へ出た。あまりの爆撃の音「バシャン、ドカン」。1人で防空壕の奥にいるのが怖くなり入口へ。そこで目にした光景は凄まじかった。空は真赤、地上は火の海。一機大きな爆撃機から金色に光る玉が落ち、地上で爆発。「ドカン、バン」。あたり一面火の海。

怖くなり思わず「おかあちゃん！」と叫んでいた。母はその叫びに驚き、足を止め振り返った。その瞬間、母の体をかすめて足元に爆弾が水面でプシュっと沼のヘドロにすぽっと入った。立ち止まらなければまともに爆弾が弟を背負った母と姉の上に落ちていた。また幸運にも柔らかいヘドロのためか爆弾は不発だったので、母はソーッと足を抜き、姉の手を引き防空壕へ戻った。

私の無事を確かめ、母は背中の弟をおろした。袖口は爆弾がかすめて焦げていた。水による消火をあきらめて、布に水を含ませ、燃え盛る火の上に並べて棒で叩き、消火をしていた。防空壕の中は蒸し風呂のように熱く、生きた心地がしなかった。

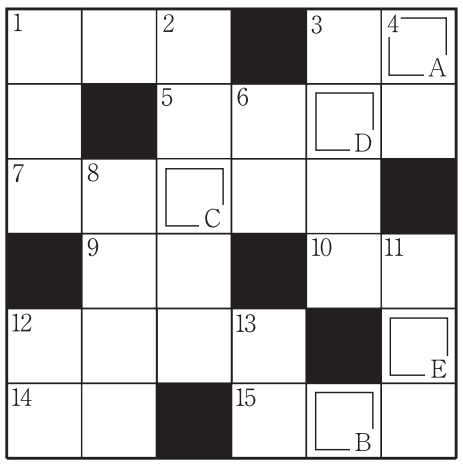
静かになり夜が明け始めた。そこで見た風景はひどい。まわりは焼け焦げて真っ黒。昨日まで緑を悠々、たくわえていた木々は真っ黒になって、かろうじて地上に立っていた。幸いにも家は焼失を免れていたが、畑の作物は全滅。「衣、食、住」の住と衣はあるが食は無く、明日からが大変。畑の真赤なトマトが真っ黒に、きゅうりの緑が真っ黒に、トウモロコシも真っ黒になり、悲しくて泣いていた。

溜池には不発弾数十個がヘドロの中にあったままだった。4、5日ほどして、地響きとともに水柱が数メートル高く上がりました。びっくりして母に聞くと、それは不発弾が爆発したとのことでした。もし、溜池ではなく地上に落ちていたら、私達住民は全滅だったかもしれない。その後も池の数十発の不発爆弾が、時々爆発して水面に輪ができていた。池が私達を救ってくれた。

今、貧富の差はあるが豊かな日本になりました。この豊かさを、どうぞ維持してくださることを願いつつ、戦争はイヤです。

お楽しみクイズ　クロスワードパズル

カギを解き、二重ワクに入る文字をＡＢＣ順に並べてできる言葉は何？



タテのキー

①いちばん古いこと
②知識や教養のある人
③勝つチャンス。――を逃す
④○○あれば苦あり
⑥書き物、本
⑧瓶入りの海苔の――
⑪ふるまい。むごい――
⑫○○ともに認める傑作
⑬○○は小を兼ねる

ヨコのキー

①産直とは――直送の略
③知らぬと○○を切る
⑤酒→試飲、料理は
⑦国ざかい
⑨アミダ○○、ハズレ○○
⑩囲碁や将棋が職業
⑫――を踏んで悔しがる
⑭山あり○○あり
⑮両者の意見が――した

ア	ト	■	キ	マ	ツ
カ	ラ	クリ	■	イ	
■	イ	ン	■	ハ	ン
ラ	■	シ	カ	イ	■
ツ	ラ	■	コ	シ	ツ
コ	ク	サ	ン	■	ル

●４月号の答
「ハルランマン（春らんまん）」
●応募数／86通

●応募方法／郵便ハガキにクイズの答え・住所・氏名・年齢・電話番号・友の会に対するご意見等を記入のうえ、
●あて先／〒590－0821　堺市堺区大仙西町6丁184－2　友の会事務局「お楽しみクイズ」係あてにご郵送ください。
●しめきり／2019年7月10日(水)消印有効
●当選発表／厳正なる抽選の上、10人のかたに賞品（図書カード500円分）を。賞品の発送をもって発表に替えさせていただきます。
●クロスワードパズル解答はがきに書かれた「ご意見」は、紙面に掲載させていただくことがあります。ご了承ください。

短歌

ニュースでは亡妻（つま）に植えたる芝桜
美事に咲きて人々集いし　手嶋喜代子

俳句

駅中に一途に巣作り親燕　林　研
愛犬の名は「さくら」花と散りゆき　手嶋　光生

川柳

留学生不明どんな国なのジャパニーズ　堺谷九条男
美辞麗句並べるだけの安倍首相　田中多美子
10連休終って見れば何残る　安東　利彦

＊句を詠む時の情景や思いもお寄せください。
＊俳句・短歌・川柳の次回締め切りは、2019年7月10日（水）です。
＊特に、俳句・短歌のご応募お待ちしております。

編集後記

「平成」から「令和」への移行での10連休。テレビはこぞって、「平成最後」「令和元年」とお祭り騒ぎを作り出している。令和になっても、生活の苦しさも、息苦しさも、福島の原発事故で避難を余儀なくされている方々の生活も変わるわけでもない。

10連休で、日給や時給の労働者の暮らしはどうなるんだろう。「新しい時代」「新しい○○」なんとなく良さげに聞こえる言葉に騙されてはいけない、中身をしっかり見なければ　と改元に遭遇して考えた。

「戦争で北方領土を取り戻す」発言をする国会議員にびっくりの連休明け。国のために血を流せと言った大臣もいた。戦争放棄を高らかに謳った日本国憲法を今こそ大事にしなければ…と決意した「令和」の始まり。（明）

平和の尊さを引き継いでいくために
戦争体験をお寄せください

機関紙編集委員会では、戦争を知らない世代に平和を受け継いでいくためにも、戦争体験を募集しています。戦後73年目を迎え、戦争の経験者が少なくなっていく中で戦争体験が語られることも少なくなり、貴重なものとなっています。編集委員会に寄せられるお手紙にも戦争体験は多くの反響があります。

お寄せいただいた戦争体験を冊子にまとめて、形に残していくことも検討しています。

ぜひ読者の皆さんの戦争体験をお寄せください。寄稿される方は800字位を目安にお願いします。

お問い合わせ　友の会事務局（TEL）072-244-8061